

SDGs スタートアップ研究分科会
アドバンスコース第 2 回情報交換会 実施報告

2022 年 10 月 11 日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る 9 月 24 日(土)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第 2 回情報交換会を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2022 年度 SDGs スタートアップ研究分科会活動状況概要
2. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
 - b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム）
 - c. 有限会社ウイルパワー（循環ビジネスの社会的役割の実施）
 - d. 高野山真言宗[大師教会] 和歌山教区<三密教会>（生活の継続が保証される町づくり）
 - e. 株式会社インフォテック・サーブ（iCD 活用で SDG s を達成）
 - f. ブルージュオブズ株式会社（SDGs × 広報応援プロジェクト）
3. フリーディスカッション

各項目の概要をお伝えします。

1. 2022 年度 SDGs スタートアップ研究分科会活動状況概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019 年 10 月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続き SDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っている SDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しています。

去る 9 月 17 日(土)、SDGs スタートアップ研究分科会の 2022 年度秋季 SDGs スタートアップセミナーを開催しましたのでご報告いたします。

詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

「ベーシックコース」については本年も 10 月開始として、すでに参加団体の募集を開始しています。詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

[2022 年度「SDGs スタートアップ研究分科会-ベーシックコース」参加団体募集のご案内 | お知らせ | 一般社団法人 PMI 日本支部 \(pmi-japan.org\)](#)

アドバンスコースの開催

本年度のアドバンスコースは、原則として 2019 年度、2020 年度、2021 年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDG プロジェクトを対象としています。すでに SDGs 事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

図 1 にアドバンスコースの位置づけ、スケジュールを示します。

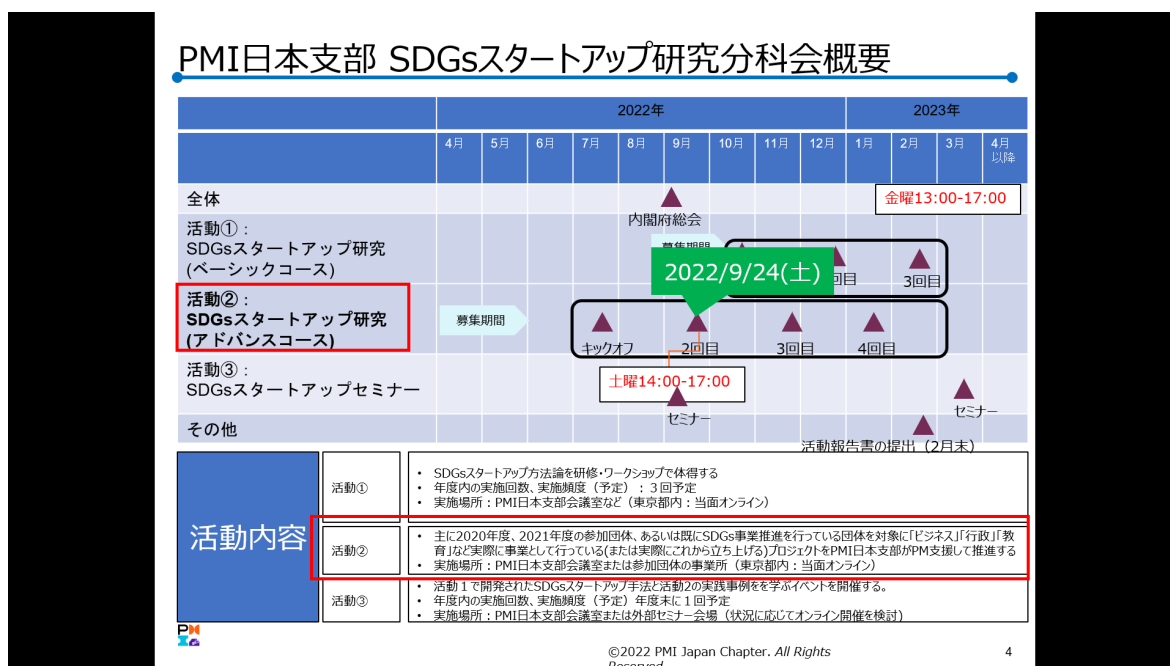


図 1 アドバンスコースのスケジュール、活動内容

2 アドバンスコース参加団体の情報交換

現在アドバンスコースに参加されているのは 6 団体です。

6 団体に SDGs 取組み状況をご報告いただきました。

- 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
（報告：舞鶴工業高等専門学校 校長 内海康雄氏）

- ・情報交換会 1 回目での活動内容概要説明のほかに、北近畿地域での舞鶴高専の活動と半導体人材の育成のタイトルで、北近畿地域における舞鶴高専の取組みとして、PMI 日本支部の支援を頂いている小規模河川の水位監視システムプロジェクトで SDGs と合わせたスタートアップを展開、また、新たな活動として、北近畿の地域プラットフォーム構築の新たな取組みでエッジコンピューティングを実現する半導体人材の育成に関して説明がありました。

小規模河川の水位監視システムプロジェクトにおいては WBS の更新版を基に、洪水予測システムの運用で、舞鶴市の総合モニタリング情報配信システムにおける志楽川のカメラ映像と水位データの事例の紹介、舞鶴市と舞鶴高専の学生（防災士）が共同して防災士の育成を行い、2022 年 4 月 6 日時点で 281 人の防災士を登録できたとの事例の紹介がありました。

[舞鶴市総合モニタリング情報配信システム | 舞鶴市 公式ホームページ \(city.maizuru.kyoto.jp\)](https://city.maizuru.kyoto.jp)

新たな活動として海の安全確保と IT 漁業を推進し、北近畿の地域プラットフォームの構築と、新たな取組みとしてエッジコンピューティングを実現する半導体人材の育成、SDGs と結びつけた地域振興の仕組みとして、北近畿の地域プラットフォームによる課題発見と解決の 3 つのテーマを推進しているとの報告がありました。

b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム[river]）

（報告：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏）

[river（リバー）]という名称で、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度利用のためのコーディネートを得られるサービス」を提供しています。

小坪氏は経済産業省大臣官房臨時専門アドバイザーに就任され、10 月 18 日に開催される内閣府・経済産業省共済イベントで、[地方創生 SDGs 事業、地域課題はビジネスチャンス！企業版ふるさと納税も活用できる！「自治体 X 企業 ビジネスマッチング会」]の開催をされます。

また、企業版ふるさと納税の 2022 年前半のアンケート集計結果を基に、企業版ふるさと納税を知っている企業は 76%で、検討を始めた企業は寄付する傾向にあり、自治体側も寄付受入れが進み、体制構築が進んでいる。との報告がありました。

企業版ふるさと納税市場は R1 年から R3 年のかけ約 6.7 倍に拡大し、寄付受入れ金額も令和 3 年に約 4,922（百万円）で前年の約 2 倍に伸びています。

c. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

(報告：有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏)

- ・ 有限会社ウイルパワー事業活動の状況報告がありました。

SDGs 事業 サークュラーベース として、

1. 事業再構築補助事業 採択後認可 8月下旬

アワード・認定 申請として、

2. 消費者庁 食品ロス推進サポーター 認定 8月下旬
3. 環境カウンセラー申請 書類(論文)提出に関して、
書類審査結果 10月下旬 で、面接 11月~12月の予定。
4. ジャパン SDGs アワード申請 12月中旬受賞者決定
5. 環境省グッドライフアワード申請 11月中旬受賞者決定

個人的活動として、

6. 防災士研修に申し込み、来年1月21・22日に研修受講の予定です。

サーキュラーベース 行政との収集運搬問題解決として、

7. 9/21 倉敷市廃棄物課・市議会議員と一般廃棄物・リユースについて意見交換
不要品寄付として

8. AMDA 社会開発機構と高校でのイベントの計画中

今後取り組み予定として、

- ① リバーコーディネータ・サービス提供企業として参加
- ② 倉敷の映画「蔵のある街」制作サポート(企業版ふるさと納税の活用予定)

SDGs アドバンス支援プロジェクトとして、

サーキュラー・ベース ~ 業者間不要品オークションシステムの構築の
スケジュール表で進捗状況の報告があり、やや遅れのある項目もありますが、ほぼ計画
に従い進行中です。 今後ロジックモデルの見直しを行う予定とのことでした。

d. 高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会>

(高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会> 浅田慈照氏)

(報告：PMI 日本支部 SDGs スタートアップ分科会 小倉 代読)

・2022 年度<三密教会>プロジェクトとして

「生活の継続が保証される町づくり」をテーマに少子高齢化地域の活性 と 防災 と 組織作りを中心に検討しています。

★ 誰もが・自分の住まう地域で・いつまでも<自守防災 柿の木坂モデル>の
GOAL： 背景弱者の「持続可能な、誰1人取り残さない」 防災

★ 共通懸念の独立・孤独を、共通理念で<SDGs～誰1人取り残さない>
・人材不足（少子化・高齢化）を補うために血縁より地縁、異世帯間交流（異世代交流）が重要。
・行政支援の空白を補うために公助より自助にフォーカスし、持続可能な住まい（自守防災）、世話焼きを歓迎するムード（支援環境の育成）を推進する。

柿の木坂モデルとして、

☆地縁：紀見小学校 ⇒ 異世代交流

☆防災支援：自主防災 ⇒ 自守防災

☆見守り：余所事・他人事 ⇒ 世話焼き隊

令和4（2022）年アドバンスコース<1年限定プロジェクト>として、
防災と地域交流による地域再生小さなプロジェクトとする。

（SDGs11：住み続けられるまちづくりにフォーカスしている。）

★地域支援 G 柿の木坂区 PJ リーンキャンパスの作成から、SDGs ゴールマッピングの作成、ターゲットリストの作成、ロジックモデルの作成までを行いました。

★今後、和歌山県橋本市「柿の木坂区地区防災計画書策定」等活動内容(WBS)の作成からベネフィットリストの作成を行う予定です。

e. 株式会社インフォテック・サーブ （代表：橋爪修氏）

（報告：株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役 木田氏、橋爪氏、志村氏）

テーマは：iCD 活用で SDGs を達成 主要なゴール 8: 働きがいも経済成長も

① 団体として今やっていること

ソリューションよりの議論になっているので、現状の課題認識からまず検討しています。デザイン思考の手法を活用し、まず、想定するペルソナの共感マップを検討しました。今は、共感マップをもとに AsIs シナリオを作成中です。各自作業後に miro で都度共有し、ディスカッションしながら作成しています。

② プロジェクト進捗状況としては、

ペルソナ1は社員、ペルソナ2は経営者を想定し、2種類の共感マップを検討しました。ペルソナは、当初の想定から見直しています。

当初： ・ペルソナ1：60-65歳のITエンジニア

・ペルソナ2：高齢者社員の多い企業経営者

変更後： ・ペルソナ1：賃金に不満のある社員（高齢者、女性、非正規、正規）

・ペルソナ2：賃金に不満のある社員をもつ経営者（B to B）

ペルソナ2のペイン・ゲインは、ペルソナ1のペイン・ゲインと基本的に整合が取れており、ソリューションを提供する対象はペルソナ2を想定しているため、現在、ペルソナ2について、AsIsシナリオを作成中です。AsIsシナリオを作成後、ペイン・ゲインを洗練化し、課題を整理する予定です。

③ SDGs 方法論に関するご意見

ベーシックでやらなかったことをアドバンスで深掘りしてやっているのが面白い。

デザイン思考の手法である共感マップを検討することにより、ペイン、ゲインがより明確になってきており、今後の検討を楽しみにしています。

f. ブルジョブズ株式会社（代表：橋本滋氏）

（報告：ブルジョブズ株式会社 専務取締役 橋本滋氏）

1) テーマは：SDGs 広報応援プロジェクトで以下の3項目を主体に考えています。

- ① ホームページの企画提案
- ② SDGs 広報に役立つコンテンツの作成
- ③ SDGs 報告書作成支援事業

2) プロジェクトを推進するための指針は以下の通りです。

<ミッション>

中小企業へのSDGsビジネス導入支援、ビジネスの成長をブレインとしてサポートする。

<ビジョン>

SDGsで地域・企業・人をつないで、次世代に残せる社会を創る～企業が当たり前のようにSDGsに配慮しながらビジネスを推進している

3) そもそも私がSDGsに取り組む理由は次のような思いがあったからです。

- 2012年、ブラジルのリオで開かれた地球サミットで温暖化、生物多様性問題が大きく取り上げられたのをきっかけに環境問題に関心を強く持つようになった。
- ライターや企業取材、クリエイティブの経験を活かし、中小企業のSDGs広報をサポートすることで、環境問題の解決に貢献したい。

4) SDGs 広報応援プロジェクト概要

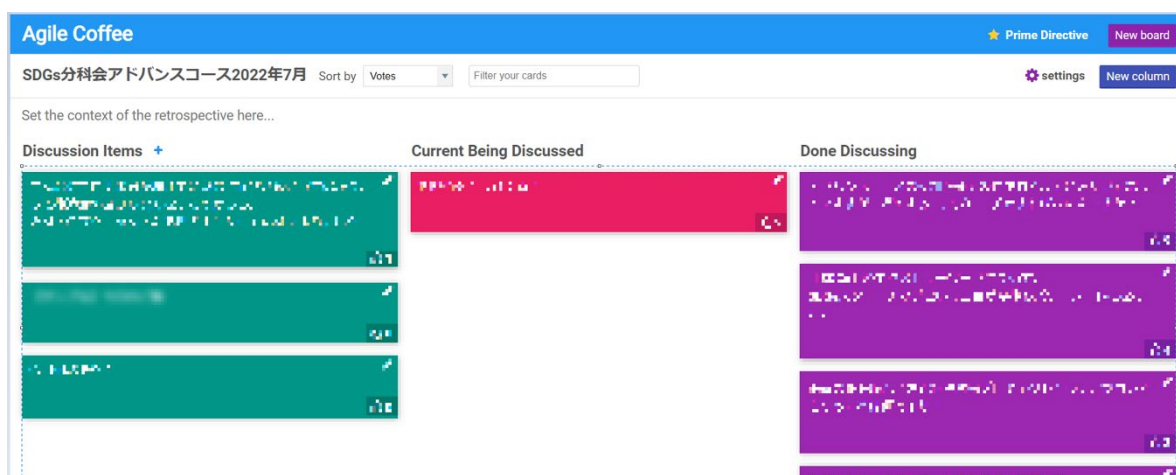
SDGsに取り組む中小企業の広報応援隊を目指す

目標とするゴールとして

- ① ホームページ販売
当社オリジナルモデル「SDGs ホームページ」の導入を増やし、その会社で働く社員が誇りとやりがいを持って働くようになる
- ② 自治体×SDGs 推進プロジェクト
自治体×SDGsプロジェクトに参画し、具体的な取組み：企業誘致、地域情報の発信で地域を活性化
- ③ SDGs 広報応援プロジェクト
具体的な取組みとして、TNFD、TCFDの普及活動

3 フリーディスカッション

その場の参加者でアジェンダを決めるリーンコーヒー形式のフリーディスカッションを行い、参加団体からのテーマを基に示唆に富んだディスカッションをおこないました。いろいろな話題や意見が出て有益な時間でした。



本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問合せください。

PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)